

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校教育の 3 本柱である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. 「確かな学力」の育成と授業改善

(1) 次期学習指導要領を踏まえるとともに高大接続システム改革を見越し、大阪府教育振興基本計画の下、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。

ア 学習到達目標、評価の観点の趣旨、評価方法の設定や、指導と評価の一体化により、観点別学習状況の評価を推進するとともに継続的な授業改善をめざす。

※ 観点別学習状況の評価を進め、計画→実践→評価→改善の繰り返しによる流れを造るようにするとともに、これによる授業改善をめざす。

※ 学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の回答を、2020 年度までには 80%以上にする（平成 29（2017）年度 69%）。

イ 「主体的・対話的で深い学び」実現のために、平成 30 年度学校経営推進費により、ICT 機器やネットワーク環境を充実させ、ICT を活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。

※ 2020 年度までに 80%以上の教員が ICT を活用した授業を実施できるようにする（平成 29（2017）年度 59%、平成 28（2016）年度 52%）。

ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。

※ 学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への生徒の肯定的回答を、2020 年度には 80%以上にする（平成 29（2017）年度 45%）。

エ 次期学習指導要領の内容について、教職員に周知を図るとともに、2022 年度からの実施に向けて、教育課程の検討を開始する。

2. グローバル人材の育成

(1) 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。

ア 英語の 4 技能の向上のために、校内での英語を使用する機会の増大や、NET の一層の活用を推進する。（luncheon meeting の実施など）

イ 校内外における英語使用機会の拡大策として、大学の学生や留学生等との様々な交流機会の可能性を模索、可能なものから実施していく。

3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充

(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、PTA の意識を醸成する。

ア 生徒、教職員、PTA に対する人権教育、人権意識醸成の機会や、情報モラル、メディアリテラシー等に関する適切な知識を得る機会を作っていく。

(2) 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるキャリア教育を充実させるとともに、希望の進路を実現させる。

ア 現状の学年毎の計画から高校 3 年間を見通した計画へと発展させ、さらに大学等への進学後のキャリア形成も織り込んだ指導を行う。

※ 卒業生の進学後の追跡調査等により、その分析結果を反映させた進路指導を行う。

※ 学校教育自己診断のキャリア教育に関する肯定率を 2020 年度までに 85%以上にする（平成 29（2017）年度 80%）。

イ 本校の伝統となっている、学習面を危惧することなく部活動ができる仕組み、環境を維持する。

※ 今後とも、部活動加入率 90%を持続し、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を 2020 年度には 75%以上にする（平成 29（2017）年度 64%）。

ウ 生徒に、大学進学等のその先、10 年、20 年後を見越したキャリア形成や、社会での役割等を意識させるため、外部講師の講演や外部施設見学を推進する。

※ 潜在的には、国公立大学への進学希望が多いことに応えるべく、地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供が出来る機会となる講演会を実施する。

※ 生徒が憧れる京都大学や同志社大学等への訪問や講義受講、関連施設等の見学のほか、京都大学、同志社大学等出身の外部講師の講演を実施する。

エ 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導体制の充実をはかる。

※ 卒業直前までバランスのとれた学力を身につけさせるべく、2020 年度までに、大学入試センター試験における 5 教科 7 科目出願者数を卒業見込み者の 40%（144 名）に増加させることをめざす。（平成 29（2017）年度 24%（85 名）、平成 28 年（2016）度は 16%（57 名））

※ 2020 年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者の 30%（108 名）以上（平成 29 年度 16%（56 名）、平成 28 年（2016）度 12%（42 名））に、国公立大学の現役合格者数を卒業見込み者の 10%（36 名）以上（平成 29（2017）年度 6%（23 名）、平成 28 年度は 4%（13 名））をめざす。

※ 2020 年度までに国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進学者数を卒業者の 65%以上をめざす。（平成 29 年度 52.4%）

4. 教職員の資質の向上及び授業力の強化

(1) 教職員研修を充実させるとともに、教職員の授業力向上のための施策を検討、実施する。

ア 教職員が、生徒を理解し、いじめについての相談を含め、個々の必要に応じた相談が受けられるように、教職員研修を充実させる。

※ 生徒向け学校教育自己診断の「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への肯定率 100%をめざす（平成 29（2017）年度 78%）。

※ 生徒向け学校教育自己診断の「牧野高校には悩みを相談できる場（人や）部屋がある」への肯定率 75%以上にする。（平成 29（2017）年度 72%）

イ 生徒が、学力に加えて、豊かな人間性やたくましく生きるための健康・体力を身につけられるよう、教職員が生徒を指導する体制を持続する。

※ 体育祭・文化祭への肯定的評価について、2020 年度以降も 90%以上を維持する（平成 29 年度（2017）91%）。

ウ 学校経営支援グループが募集する「育成支援チーム事業」か、教育センターの「パッケージ研修支援」事業への応募体制を 2019 年度までに整える。

(2) 教職員の長時間勤務の縮減

ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事の見直しや、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底し、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、76%となり、前年度の69%から7ポイントの改善となった。このうち「よくあてはまる」への回答が9%から15%へと6ポイント改善した。今年度は、学校経営推進費の獲得に加えて、PTAからの支援もいただき、全28普通教室と理科4教室の合計32の教室へ電子黒板機能付超短焦点プロジェクターの設置がされて、ICTを活用した授業実施の環境が整ったことも影響し、生徒がわかりやすいと感じる授業が増えたものと考えている。 「ICT機器等を活用した授業を行っている」と回答した教員は、前年度の59%から21ポイント改善し、80%になった。「ICT機器やネットワークを利用した授業が多い」の生徒の肯定的回答も、前年度の54%から27ポイント改善の81%に急伸した。本校全体のICT環境の改善の成果と考えられる。 「到達度の低い生徒に対する指導ができていない」に対する教員の否定的回答は2年連続で計13ポイント減少し(72%⇒60%⇒59%)、教員の肯定的回答が2年連続で上昇(28%⇒40%⇒41%)、この肯定のうち「よくあてはまる」が2年連続の0%を脱し10%になるなど、漸次改善の状況がうかがえる。 「学習意欲の高い生徒に対する指導ができていない」に対する教員の否定的回答は2年連続で減り(56%⇒38%⇒28%)、教員の肯定的回答が2年連続合計27ポイントの大幅上昇となった(45%⇒63%⇒72%)。肯定的回答のうち、「よくあてはまる」の回答も、2年連続で合計11ポイントと漸次改善傾向を示している(5%⇒10%⇒16%)。 「授業の予習、復習ができていない、まずできていない」の生徒の回答は、合計で前年度の45%から47%とやや改善し、「できていない」と回答する生徒は12%から10%へ減少したものの、大きな課題と認識している。 「学校の授業以外の1日当たり平均学習時間が2時間以上」と回答する生徒は、40%と1ポイント上向いたが、1年生では13%、2年生は20%、3年生が83%というのが実態で、他方、「学校の授業以外で、1日当たりの平均学習時間が1時間未満」と回答する生徒が、3年生で8%、2年生で38%、1年生は43%もあり、引き続き1、2年生への働きかけが必要と認識している。 「図書館が利用しやすい」に対する生徒の肯定的回答は前年度同様の75%となった。一昨年度に66%だったところから大きく改善し、維持できている。担当教員による館内整備が進み、生徒の自習室としても良く利用されている。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「牧野高校は楽しい」に対する生徒の肯定的回答は91%で、依然として高い水準を維持している。 「基本的な生活習慣(遅刻・規程遵守等)に対する指導には納得できる」の生徒の肯定的回答は67%から77%へ10ポイント上昇し、このうち「よくあてはまる」が25%から33%へ8ポイント上昇したが、保護者の「基本的な生活習慣(遅刻・規程遵守等)に対する指導は適切である」への肯定的回答は、前年度の91%から79%へ12ポイント低下し、このうち「よくあてはまる」が37%から20%へ17ポイント下がっており、対照的な結果になった。 「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、前年度の80%から82%に、このうち「よくあてはまる」が前年度の18%から27%に9ポイント上昇した。引き続き丁寧な対応を基本にしっかりとした取り組みを続けていきたい。 「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答は前年度の72%から80%に8ポイント上昇し、このうち「よくあてはまる」も前年度20%から30%へと10ポイントの上昇になった。こちらも学校として引き続きしっかりとした取り組みを続けたい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は77%から81%へ上昇し、このうち「よくあてはまる」が19%から27%へと8ポイント上昇した。進路指導部や学年団の教員の努力に負うところが大きい。 「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は、前年度の80%から85%に向上し、このうち「よくあてはまる」が26%から32%へ6ポイントの上昇となった。 一方「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への生徒の肯定的回答は前年度の75%から72%になり、このうち「よくあてはまる」が24%から18%へ6ポイント低下した。「キャリア教育」の意味や、理解を含めて、設問の仕方自体に課題があるかもしれない。何れにしろ引き続き生徒に対する多様な機会の提供に努めたい。 部活動加入率は、新入生入学時での90%は持続されており、「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は94%で昨年と同率、このうち「よくあてはまる」が59%から61%へ2ポイント上昇した。 他方で、「部活動と学習の両立ができていない」への生徒の肯定的回答は64%から62%へ低下し、同じ設問に対する保護者の肯定的回答も64%から62%へ同様の低下を示しており、部活動と学習のバランスには配慮していく必要があると感ずる。今年度は、インターハイ出場者を出すなど各部活で好成績を収める一方、生徒や保護者の意識の中では、学習との両立が難しくなっている状況に鑑み、「ノークラブデー」等の徹底に加えて、新たな部活動指針の導入等による部活時間の見直しを進めていく必要があると感じている。 保護者では、「教室以外の施設・設備生徒が良好である」に対する肯定的な回答が増えた(54%⇒62%)。トイレ等改修した影響だと考えられる。 教員については、「生徒の10年20年先を見据えた進路指導を行っている」(43%⇒63%)、「牧野高校の教室等の学習環境は良好である」(46%⇒59%)、「牧野高校の教室以外の施設・設備は良好である」(19%⇒39%)、「校内研修は内容頻度ともに適切に行われている」(65%⇒77%)の4つで、肯定的回答が大きく増加した。全HR教室等への電子黒板の設置やトイレの改修等の効果が現れていると考えられる。 	<p>【第1回】平成29年6月19日 報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度学校経営推進費により、1、2年生の全ての教室に電子黒板を設置できるようにする(2学期以降)。それに伴い、80%の教員がICTを活用できることを目指す。学校教育自己診断の「牧野高校の授業はわかりやすい。」「授業の予習、復習はできている。」の項目の目標を80%以上に上げたい。 関西外国語大学の学生2人に1ヵ月来てもらい、授業等で英語による国際交流を深めることができた。 2020年度までに国公立大学の現役合格者数を卒業予定者数の10%を目標にする。 働き方改革の一環として、職員会議のやり方の変更や、マークシートリーダーの導入、土曜PSTの廃止、学校説明会の削減等、各種の取り組みを進めている。 <p>意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでもしっかりと様々なことに取り組まれている学校なので、そのまま進めていただきたい。卒業生の進学後の追跡調査の分析はどのように行っているのか。 相対的に成績が下がることは残念ではあるが、牧野高校は勉強・行事・クラブ活動のバランスのとれた学校なので、その良さを失わない方向で学力が上がる方策を進めていただきたい。 学力をつけることは当然なことであるが、それだけではなくいろいろなことをやりながら、生徒のみなさんは将来に向けて強い意志を持って取り組んでほしい。 最後によかったと思える人生を送ってほしいので、中期目標にある「豊かでたくましい人間性の育成」には大きく期待したい。 PTAとしても、援助できることはしていきたい。学校に行けるのが当たり前でない昨今、子どもは学校に行くのがとにかく楽しそうです。素直な生徒が多い良い学校だと思っています。 非認知能力は教職員も身につけていく必要がある。今後は学校経営方針について明確化していくことになる。次回の会議では電子黒板を見せていただきたい。 <p>【第2回】平成30年12月7日 報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、28HR教室と4理科教室に電子黒板機能付きのプロジェクターを設置。設置前より授業でのICT機器活用度が高まりつつある。 グローバル人材の育成については、先日も1年生対象に英語スピーチの暗証大会を開催し、育成を図っている。 大学入試におけるセンター試験の受験申込者が、3年生の75%を占めるまでに増加。また、3割超の生徒が国公立型の受験を志望し、目標以上に増加している。 2019年度に向けて新たな3つの取り組みを行うことを決定。 <p>①制服化プロジェクト・・・9月に来年度の新生入生から制服化を決定。男女それぞれがブレザータイプや詰襟タイプを選択できるようにしている。</p> <p>②教育課程の見直し・・・総合的探究の実践に対応したカリキュラムの編成に着手。</p> <p>③クラブ活動時間の見直し・・・大阪府の指針を受けて対応を協議中。</p> <p>意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生、生徒の意識改革により国公立大学への進学志望者が増加したことは喜ばしいことである。他方で、これまで同様に楽しい牧野高校であり続けてほしい。 授業アンケートの結果が良い方向にアップしていることは素晴らしい。また、大変な事件が続いたが、ぜひ子どもたちの心のケアを大切にしてほしい。 生徒の心のケアを重点的にお願いしたい。授業アンケートの数値がアップしているのは大変な努力がされた結果だと思う。ここ近年、牧野高校生の登校風景も素晴らしく改善されていると感じる。 生徒の力を伸ばすことを学校側の責任の一つであると考えられていて、とても大変だと感じた。 教員も含め校内がリフレッシュされたことによりアンケート結果にもポジティブに反映されていることや、校長のリーダーシップにより意識改革も図られていることが中間報告からも読み取れた。今後、牧野高校が新しく質の高い転換を迎えられることを期待したい。 <p>【第3回】平成31年2月7日 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記記載の学校教育自己診断の結果と分析 生徒の授業アンケート結果は、昨年度比で教員全体の平均ポイントが大きく上昇(2.9⇒3.2)し、今年度の1回目と2回目の比較でも、3年生では9つある観点の全てが上昇し、このうち8つの観点で0.6~1.3という有意な上昇が見られる。 3年生の大学入試センター試験の出願者が299名で、在籍者(395名)比で75%を超え、前年度の246名、69%を大きく上回り、人数、率ともに過去最高になった。このうち5教科7科目の出願者も123名、31%となり、人数は昨年度比1.45倍、一昨年度比2.16倍に増えた。得点も、平均点、最高点ともに、2年連続上昇の模様。 <p>意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブと勉強の両立が課題である、と考えている生徒が多いという数字は、逆に生徒たちのモチベーションの現れではないかと思う。進学希望の多い牧野高校において、クラブ活動をどのように位置づけていくかということは課題だと思う。 集計を見ると、保護者では25項目の内、「部活動と学習の両立」の1項目、生徒では32項目の内、「予習、復習」「進路資料室の利用」「部活動と学習の両立」「奨学金手続きの説明」の4項目において、最も低い評価が10%を少し超えている。他は全て一桁であることから、これらが課題と言えるのではないかと。 教員では、「教職員間の相互理解に基づいた教育活動」で最も高い評価が一桁になっているので、そのあたりの改善にも取り組んでいただけたらと思う。 年末の餅つき大会は非常に良かった。生徒たちは気分転換ができて、みんなが笑顔いっぱい「おいしかった」と言って喜んでいて、PTAとしても、餅つき大会をはじめ、体育祭の給水や、後援会への加入者を増やす取り組みなど、楽しい学校やよりよい環境のための協力を続けていきたい。 学校経営計画に書かれているように少しずつつよをつよを上げていただけたらと思う。一方で、教職員の勤務時間の縮減などにも取り組んでいただけて、教職員が疲弊してしまうことがないようにお願いしたい。 学校教育計画についてご承認を頂く、ということでもよろしいでしょうか。それでは、少し、進路関係の細かな数字で未定の部分がありますが、ご承認をいただきました。ありがとうございました。

府立牧野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成と授業改善	(1) 「確かな学力」の育成と授業改善 ア 観点別学習状況の評価の推進と継続的な授業改善推進 イ ICTを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 次期学習指導要領の内容についての教職員への周知と対応検討開始	(1) 「確かな学力」の育成すべく、観点別学習状況の評価を進めるとともに、その実践により、授業改善をめざす。 ア・学習到達目標、評価の観点の趣旨、評価方法の設定や、指導と評価の一体化により、観点別学習状況の評価を進め、計画→実践→評価→改善の繰り返しによる流れを造るとともに、これによる授業改善をめざす。 イ・「主体的・対話的で深い学び」実現のために、平成30年度学校経営推進費により、ICTを活用した授業等の実施機会を推進する。 ウ・入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。 エ・次期学習指導要領の内容について、教職員に周知を図るとともに、平成34年度からの実施に向けて、教育課程の検討を開始する。	ア・学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の回答を、72%以上にする(平成29年度69%)。 イ・65%以上の教員がICTを活用した授業を実施できるようにする(平成29年度59%)。 ウ・学校教育自己診断における「授業の予習、復習はできている」への生徒の肯定的回答を、50%以上にする(平成29年度45%)。 エ・次期学習指導要領の内容について教職員へ周知と、その対応への検討を始める。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は76%になり、「よくあてはまる」の回答が9%から15%に増加した。(◎) イ・平成30年度学校経営推進費ほかで32教室に電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターを設置した結果、80%の教員がICTを活用した授業を実施と回答。また、81%の生徒が、ICTを活用した授業が多いと回答。(◎) ウ・「授業の予習、復習はできている」への生徒の肯定的回答は45%から47%に増加の一方、「授業の予習、復習は『できていない』」生徒は2018年度の12%から10%へ減少した。(△) エ・7月に新学習指導要領への対応プロジェクトチームが発足、次期学習指導要領内容について教職員へ周知するとともに、先行実施への対応や、完全実施時への準備が始まった。(○)
2. グローバル人材の育成	(1) 校内外での英語使用機会の増加 ア 校内外英語使用機会増大 イ 近隣大学の学生や留学生等との英語交流	(1) 国際共通語としての英語による生徒のコミュニケーション能力を本校に在学中に可能な限り習得させるために、校内外における英語の使用機会を増大させる。 ア 校内外での英語の使用機会の増大と、NETの一層の活用を推進する。 イ 近隣の大学の学生や留学生などとの英語による交流機会等の可能性を模索、実施する。	ア 校内外での英語の使用機会の増大を模索するとともに、NETと校長を交えた、luncheon meeting等を実施して行く。 イ 近隣の大学の学生や留学生などとの英語による交流機会を模索、実施する。	ア・1年生には11月に校内英語暗唱大会を今年度新たに開催。12月には地域の小学校で小中高4校合同英語暗唱スピーチコンテストがあり、5名参加。1年生全員がGETC初受験。(○) イ・5月～6月に、関西外大の2名の米国大学留学生のインターンシップを4週間フルタイムで受入れ。マレーシアの高校生2名も来校し、ランチタイムミーティング等を実施。(◎)
3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充	(1) 多様性、共生のための、意識の醸成 ア 生徒、教職員、PTAの人権意識醸成、情報モラル等に係る知識習得機会の開催 (2) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア キャリア形成意識の醸成のためのキャリア教育充実と進路指導強化 イ 学習と部活動を両立する伝統の維持継続と生徒の顕彰 ウ 大学進学等の先を見越したキャリア形成と意識づけのための外部講師の講演や、外部施設見学の推進 エ 入学から卒業まで、全教科で学力をつけさせる指導体制の充実	(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、PTAの意識を醸成する。 ア 生徒、教職員、PTAに対する人権教育、人権意識醸成の機会や、情報モラル、メディアリテラシー等に関する適切な知識を得る機会を作っていく。 (2) 生徒に、大学進学等のその先、10年後、20年後を見通したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるキャリア教育を充実させるとともに、希望の進路を実現させる。 ア・現状の学年毎の計画から高校3年間を見通した計画へと発展させ、さらに大学等への進学後のキャリア形成も織り込んだ指導を行う。 ・卒業生の進学後の追跡調査等により、その分析結果を反映させた進路指導を行う。 イ・本校の伝統である学習面を危惧することなく部活動ができる仕組み、環境を維持する。 ・学習面と部活面の両面で成果をあげた生徒の顕彰をする。 ウ・生徒に、大学進学等のその先、10年、20年後を見越したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるため、外部の講師による講演や外部施設の見学を推進する。 ・潜在的には、国公立大学への進学希望が多いことに応えるべく、地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供が出来る機会となる講演会を実施する。 ・生徒が憧れる京都大学、同志社大学等の訪問や大学内での講義の受講体験を進める。 ・京都大学等の関連施設等の見学などのほか、京都大学、同志社大学等出身の外部講師による講演を実施する。 エ 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導体制の充実をはかる。 ・卒業直前までバランスのとれた学力を身につけさせるべく、大学入試センター試験における5教科7科目受験者数の増加をめざす。 ・国公立大学の現役受験者数、現役合格者数の増加をめざす。 ・国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進学者数の増加をめざす。	(1) 多様性、共生のための、意識の醸成 ア 生徒、教職員、PTAの人権意識醸成等に関する適切な知識習得機会を平成30年度中に複数回行う。 (2) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答を85%以上にする(平成29年度80%)。 ・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答を80%以上にする(平成29年度75%) イ・平成29年度以降も、部活動加入率90%を持続しつつ、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を70%以上にする(平成29年度64%)。 ウ・地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供が出来る機会となる講演会実施 ・京都大学、同志社大学等の訪問、講義受講体験実施。 ・京都大学等の関連施設(京大防災研究所宇治川ラボ、京都大学農場等)の訪問。 ・京都大学、同志社大学等出身の外部講師の講演実施。 エ・大学入試センター試験における5教科7科目出願者数を卒業見込み者の25%(100/400名)をめざす。(29年度24%(85/360名)) ・国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者の15%(60名)以上、現役合格者数を6%(24名)以上をめざす。(29年度6%(23名)) ・国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進学者を卒業者の65%以上をめざす。(29年度59%)	(1) ア・生徒は各学年ごと、また、教職員も、人権意識醸成等に関する講演会や映画鑑賞、勉強会、ワークショップなどを平成30年度中にそれぞれ2回ずつ行った。PTAは独自の社会見学行事2回のほか、PTAの役員は全国大会やブロック集会の中で人権に関する講演等に参加した。(○) (2) ・ア 学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は80%から85%に向上した。(○)。 ・1年生、2年生は、それぞれ、外部講師によるキャリア教育の講演会や、職種別の説明会を実施したが、生徒の「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への肯定的回答は72%であった。(△) イ・学校評価自己診断で、「部活動は活発である」への肯定的回答は、前年と同じ94%であったが、「部活動と学習の両立が出来ている」に対する肯定的評価は62%になった。(△) ウ・3年生に対して、地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供をすべく、4月中旬に香川大学の教授による講演会を実施した。また、3月には2年生を対象に、国公立大学の魅力や情報の提供をすべく、香川大学教授による講演会を実施予定である。(○) ・9月に、PTAによる京都大学と同志社大学の訪問を実施。12月には、1年生に京都大学と同志社大学の体験入学、講義受講体験を実施したところ、203名の参加があった(昨年度は1、2年生合同で100名が参加)。(◎) ・京都大学防災研究所宇治川ラボラトリーへの訪問については、次年度内での実施を計画し、現在折衝中である。 ・同志社大学出身のフリーアナウンサーである八木早希の講演を10月に実施した。(○) エ・大学入試センター試験の出願者数は前年度の246名、69%から、299名、75%となり、人数、率ともに、過去最高となった。このうちで5教科7科目での出願者数は卒業見込み者の31%(123/395名)となった。(◎) ・国公立大学の現役受験者数は卒業見込み者の20%(78名)、現役合格者数は4.8%(19名)となった。(○、△) なお、過年度生を含めた国公立大学の合格者数は、31名(平成30年度は25名)となり、過去最高の人数だった。 ・国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進学者は卒業者の50%となった。(△)

府立牧野高等学校

<p>4. 教職員の資質の向上及び授業力の強化</p>	<p>(1) 教職員研修の充実、授業力向上の施策の検討、実施 ア 相談能力養成のための教職員研修充実 イ 生徒が学力に加え、豊かな人間性やたくましく生きるための健康・体力を身につけられる体制持続 ウ 教員力向上のための研修体制の整備</p> <p>(2) 教職員の長時間勤務縮減 ア 校内行事の見直しや、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進</p>	<p>(1) 教職員研修を充実させるとともに、教職員の授業力向上のための施策を検討実施する。 ア・教職員が、生徒を理解し、いじめについての相談を含め、個々の必要に応じた相談が受けられるように、教職員研修を充実させる。 イ・生徒が、学力に加えて、豊かな人間性やたくましく生きるための健康・体力を身につけられるよう、教職員が生徒を指導する体制を持続して行く。 ウ・教員力向上のため、学校経営支援グループが募集する「New 育成支援チーム事業」、または、教育センターの「パッケージ研修支援」事業への応募体制を整備する。</p> <p>(2) 「働き方改革」や、健康管理の観点から、校内行事の見直しを行うとともに、「全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の実施を徹底し、教職員の長時間勤務を縮減する。 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事等の見直しを行うとともに、教職員の意識改革を図り、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進していく。</p>	<p>(1) 教職員研修の充実、授業力向上の施策の検討、実施 ア・生徒向け学校教育自己診断結果の「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への肯定率 100%をめざす。(平成 29 年度 80%) ・生徒向け学校教育自己診断結果の「牧野高校には悩みを相談できる場(人や)部屋がある」への肯定率 75%以上にする(29 年度 72%)。 イ・体育祭・文化祭への肯定的評価について、90%以上を維持する。(平成 29 年度 91%) ウ・「育成支援チーム事業」か、「パッケージ研修支援」への応募体制を整備する。 (2) 教職員の長時間勤務縮減 ア・「働き方改革」の観点から、教員負担になっている土曜 P S T 等、校内行事の見直し、廃止等を実施する。 ・全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の 100%の実施をめざす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定率は 82% (前年度 80%) で、「よくあてはまる」が 27%になった(前年度 18%)。(○) ・学校教育自己診断の「牧野高校には悩みを相談できる場(人や)部屋がある」への生徒の肯定率は 80% (前年度 72%) となり、「よくあてはまる」が 30%になった (前年度 20%)。(◎)。 イ・学校教育自己診断の体育祭への肯定的評価は、雨で 2 日順延されたが、生徒 88% (前年度 91%)、教員 92%(前年度 88%)、保護者 91%(前年度 95%)であった。 ・学校教育自己診断の文化祭への肯定的評価は、台風 21 号に影響されたが、生徒 89% (前年度 91%)、教員 90% (前年度 85%)、保護者 90% (前年度 95%) であった。(○) ウ・校内に発足した授業力強化、ICT 環境充実プロジェクトチームが他校の ICT 活用事例等を研究して校内で研修会を実施し、授業力向上に加えて働き方改革にも繋がる結果となった。次年度は「パッケージ研修支援」への応募を検討する。(○) (2) ア・今年度は以下の施策を実施した。 ①土曜自習当番廃止。②職員会議の運営方法変更。 ③学校説明会開催を年 4 回から 2 回にして参加者を増加。④マークシートリーダー導入による採点負担減。⑤全 HR 教室等への電子黒板導入による板書教材等の一部共有化・効率化。(○) これらの結果、教職員一人あたりの時間外勤務時間数は、平成 30 年度比で 91.1%と、8.9%削減できた。(○)</p>
-----------------------------	--	---	---	--